



娘とのメールのやり取りから始まって、インターネットの検索、エッセイの書き込みと推敲など、私のパソコン歴はもう十年以上になる。すべて自己流なので、機能のほんの数パーセントも使かいない。こなししていないようだが、充分楽しんで活用してきた。

四月末、長年のよき相棒であったマックのパソコンが、うんともすんとも反応しなくなってしまうた。書きためた大事なエッセイがどうなってしまうのか、メカに弱く、しかもバックアップを取っていなかった私は、パニックで頭の中が真っ白になってしまっただった。

あわててコンピューターお困りなんでも相談に電話した。オートバイでやって来た、ミスターコンピューター氏に助けてもらって、すべてが解決したのは五月も末のことであった。

かのコンピューター氏は、「少数派のマックから広く普及しているウィンドウズに変わりましたが、キーが打てるのなら大丈夫です。それに解説書が本屋や図書館に山ほどありますし、マックと違って分からないことを聞ける人が、まわりにたくさん居るでしょう」と言い残して去っていった。

機種が新しくなった。同じノートパソコンでも白くスマートだったものから黒く重い実用的なものになった。使い勝手も変わり、初めは戸惑いがちであったが、少しずつ慣れていった。

ウィンドウズになって、淋しい野中の一軒家から引越して、やっと賑やかな街中に出て来たようで、私はうきうきした気分であった。これを機に、パソコンをもう少し、しっかり身に付けたいと思っていた。

そんな折に、知人のSさんが**超初心者歓迎パソコン教室**が近くにあると、パンフレットを持ってきてくれた。二十代から八十代の方まで通われています。ノートパソコン持込みもOK、個人指導、テキストでじっくり学習、と書かれていた。早速見学に行った。歩いて数分、娘の通った小学校のすぐ近くにある。

個人の住宅の一階が教室になっていて、入った瞬間、懐かしい幼稚園のような雰囲気、現れたE先生は、昔の女子大生がそのまま四十代になった感じ、とても静かで優しいそう。ほっと安心する。以前講習会で、男の先生に同じことを質問して叱られたことがある。E先生は、私の条件にぴったりだと思った。

五台の最新のパソコンがあり、壁にはそれらを駆使して作り上げたさまざまな作品が掛けられている。カラフルなカレンダー、名刺、表彰状など、それにパソコンで作った絵を、Tシャツや布バッグにプリントしたものもある。幼稚園のように思えたのは、明るい色に溢れていたからだろう。

六月十日、私の七十一歳の誕生日、この教室でパソコンを習い始めた。この

年になって物事をしつかり教えてもらうのは、新鮮で嬉しいことである。まず文章を書くワードの初級から学習はスタートした。週一回、一時間半の集中した時間はあつという間に過ぎてしまう。

「へーそんなこともできるの、このキーを使えば」

「私がこれまでやっていたのは、ずいぶん遠回りだったのね」

「やっぱりパソコンは利口ね、こんな機能がちゃんと付いているわ」

「先生、この前教えていただいたことは覚えていますが、すっかり忘れてしまいました。どれをどうすればいいのですか」

「わーこんなきれいな作品が出来上がった」

毎回私も少しずつ伶俐になっていくに違いないと、スキップするような気持ちで帰ってくる。一週間が過ぎ、復習しないまま出かけ、また同じことを先生に質問して何度も何度もやり直す。先生はいつも優しく指導してくださる。焦らなくていいんだと、自分に言い聞かせ、楽しい教室通いがもう四ヶ月になる。

教室で出会った生徒さんは若い人もいるようだが、ほとんど私と同年代の女性、マウスの使い方やキーボードのタッチから始める人、インターネットでの検索やメールが出来るようになりたい人など、それぞれが頑張っている。

ワード初級の第五章までが終わり、文字の大きさや形を変えたり、文の中にカットの絵を入れたり、色を変えたり出来るようになってきた。今、中級の第二章に入っている。ここでやっと縦書きの文書が出てくる。年末にはオリジナルな年賀状を作れるのではないかと期待している。

(平成二十年十月)

